

外交史料館特別展示

マッサン展



琥珀色の夢と青いバラのものがたり

—竹鶴政孝と知られざる

日本・スコットランド交流史—

2014年9月24日（水）～2015年5月8日（金）

目次

はじめに 古くからの良き友人スコットランド	- 3 -
「マッサン」とは	- 4 -
スコットランド史へのいざない	- 5 -
スコットランド前史年表	- 6 -
コラム 「悲劇の女王」メアリー・スチュアート	- 7 -
I 幕末期の日本・スコットランド関係	
1. 日英修好通商条約調印書	- 8 -
2. グラバーの叙勲関係	- 9 -
コラム ビクトリア女王とバルモラル城	- 10 -
II 日本・スコットランド技術協力関係	
3. ヘンリー・ダイアーの叙勲関係	- 11 -
コラム お雇い外国人	- 12 -
4. ケルビン卿の叙勲関係	- 14 -
5. フォース鉄道橋と渡邊嘉一	- 15 -
III 皇室外交とスコットランド	
6. 皇室外交の始まり＝エディンバラ公の来日	- 16 -
7. 裕仁皇太子（後の昭和天皇）のスコットランド訪問	- 16 -
8. 英国皇太子の答礼訪日	- 17 -
9. 明仁皇太子のスコットランド訪問	- 18 -
コラム 蛍の光	- 19 -
IV 竹鶴政孝関係	
10. 大正7年の旅券および旅券発給記録	- 22 -
11. グラスゴウ大学夏期講座の受講証	- 23 -
コラム 夏目漱石とスコットランド	- 24 -
12. 政孝の研修報告ノート	- 25 -
13. 結婚証明書送付書類	- 26 -
14. リタさんのパスポート	- 27 -
コラム ジェシー・ロバータ（リタ）・カウン	- 28 -
コラム 竹鶴政孝	- 29 -
コラム 琥珀色の夢のものがたり	- 30 -
15. 山崎蒸留所建設	- 31 -
16. 山崎蒸留所始動へ	- 32 -
17. 苦労したポットスチル	- 33 -
18. リタさんの里帰り	- 34 -
19. 国産初のウイスキー誕生	- 35 -
20. リタさん最後の里帰り	- 36 -
21. 新会社設立に向けて	- 37 -
22. 日本ウイスキーのアメリカ進出	- 38 -
V 札幌冬季オリンピック	
23. 竹鶴政孝と札幌オリンピック	- 39 -
コラム 青いバラのものがたり ～日本とスコットランドの未来へ	- 40 -
マッサン展関連年表	- 42 -
主要参考文献	- 46 -

はじめに 古くからの良き友人スコットランド

スコットランドと聞くと、多くの日本人は「英国の一地方」という認識しか持ち合わせていないのではないのでしょうか。しかし、英国を英語では **United Kingdom**＝連合王国というように、その連合王国の重要な構成員であり、イングランドや北アイルランドなどとは異なる文化と歴史を有するのがスコットランドです。

そして、スコットランドから我が国は、大きな影響を受け続けています。今回の展示で採り上げる竹鶴政孝が学んだスコッチ・ウイスキーの製法がその一つであり、我が国の食文化をより豊かにしてくれています。また、多くの日本人にとって、もはや外国の民謡であることすら忘れられているほど私たちの日常生活に溶け込んでいる「蛍の光」は、代表的なスコットランド民謡です。

このスコットランドと我が国の出会いは、実は今から約 400 年前にさかのぼります。1603 年、スコットランド王ジェームズ 6 世がイングランド国王も兼ねることとなり、ジェームズ 1 世として改めて即位しました。そのまさに同じ年、日本では徳川家康が江戸幕府を開き征夷大將軍になりました。徳川家康が日本に漂着した英国人のウィリアム・アダムスこと三浦按針を重用したことは有名です。しかし、三浦按針を介して、ジェームズ 1 世と徳川家康および 2 代將軍秀忠との間で手紙や贈呈品のやり取りがあったことはあまり知られていないのではないのでしょうか。ジェームズ 1 世からは時計などが贈られ、徳川秀忠からは家康が関ヶ原の戦いで着用した鎧などが贈られました。

日本側からの贈呈品は、多くの歴史的人物の処刑場ともなったロンドン塔に現在でも大事に保管されています。夏目漱石は、ロンドン留学中に一度だけロンドン塔を訪れ、そこで処刑された人々に思いをはせ、「倫敦（ロンドン）塔」を書いています。

このように我が国にとって古くからの良き友であったスコットランド、本展示を通じてスコットランドをより身近に感じていただけることを祈念してやみません。

「マッサン」とは



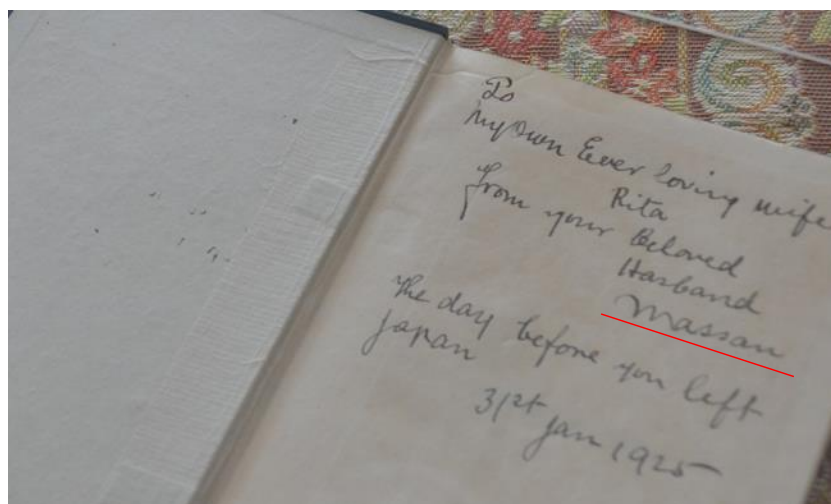
新婚当時の竹鶴夫妻 ※アサヒビール社提供

今回外交史料館では「マッサン展」と題した展示を試みました。ここで「マッサン」について説明します。

「マッサン」とは、大正時代に単身スコットランドに渡り、スコッチ・ウイスキーの製法を学び、「日本ウイスキーの父」と呼ばれる竹鶴政孝に由来します。政孝は、スコットランド

で一人の女性に一目ぼれして、あらゆる反対を押し切って結婚します。その女性、リタさんは、「日本人以上に日本の文化を愛した女性」と言われています。この夫婦こそ、「日本とスコットランドをつなぐ架け橋」という言葉にふさわしいと思います。

リタさんが政孝のことを「マッサン」と呼んでいたのも、日本とスコットランドの長く深い絆を紹介する今回の特別展示に、その象徴として、「マッサン」を使わせていただくことにしました。



リタさんが初めて里帰りしたときにマッサンがプレゼントした本の揮ごう

※アサヒビール社提供

「永遠に愛する妻リタへ 貴女の愛する夫 Massan より
貴女が日本を出発する前日の1925年1月31日」

スコットランド史へのいざない

歴代のスコットランド王が即位式の際に座る、運命の石（スクーンの石）は、西暦 500 年頃に成立したダルリアダ王国以降歴代スコットランド王の象徴です。しかし、13 世紀末スコットランドの弱体化につけこみ、1296 年、イングランドのエドワード 1 世がスコットランドに攻め込み、スコットランド王を追放し、運命の石も奪われてしまいました。それ以来、運命の石はウェストミンスター寺院に置かれ、エドワード 2 世（1307 年）からエリザベス女王 2 世（1953 年）まで「戴冠の椅子」にはめられて使われてきました。



「戴冠の椅子」
エディンバラ城HPより

スコットランドの独立回復を願った貴族、ロバート・ブルースは 1314 年のバノックバーンの戦いでエドワード 2 世率いるイングランド軍を破り、1328 年にはノーサンプトン条約を結び、イングランド王にスコットランド王の権利を認めさせることに成功しました。

その後もイングランドとの間には度々戦争が起きましたが、1603 年、イングランドでエリザベス 1 世が亡くなると後継者不在のためスコットランド王ジェームズ 6 世がイングランド王も兼ねることとなり改めてジェームズ 1 世として即位しました（同君連合）。

しかし、17 世紀には宗教問題を中心に様々な問題が噴出しました。その混乱の中、スコットランドが望みをかけたのは海外進出でした。パナマのダリエンに植民地と貨物の集積地を作ろうとするダリエン計画が持ち上がり、多額の資金がつぎ込まれましたが、当時の英国王のウィリアム 3 世が反対したため、失敗に終わり、スコットランド経済は壊滅的状況に追い込まれました。

もはや一つの国家を維持していくことが困難になったスコットランドは、イングランドとの交渉の結果、かねてからの主張であった商業上の平等の確保には成功して、「合同法」が制定され、イングランドとスコットランドはグレート・ブリテン連合王国となったのです。



「運命の石」
エディンバラ城HPより

なお、運命の石は 1996 年によりやく返還され現在はエディンバラ城で展示されていますが、将来チャールズ皇太子が即位される際にはまた使われる予定だそうです。

スコットランド前史年表

西暦	スコットランド関係	日本および日・スコットランド関係
1314	バノックバーンの戦い: イングランド王エドワード2世軍、ロバート・ブルース指揮下のスコットランド軍に敗れる	
1324	スコットランド独立: ロバート・ブルース、ロバート1世として即位	
1413	セント・アンドリュース大学創立(スコットランド最初の大学にして英語圏3つめの大学)	
1451	グラスゴウ大学創立	
1542	ジェームズ5世の急逝により生後6日目のメアリー・スチュアートが王位を継承=メアリー1世	
1566	メアリー1世、エディンバラ城で皇子を出産→翌年貴族の反乱により廃位に追い込まれ、皇子がジェームズ6世として即位	
1568	メアリー1世、エディンバラ城で皇子を出産→翌年貴族の反乱により廃位に追い込まれ、皇子がジェームズ6世として復位を目指し挙兵するも破れイングランドに逃亡→イングランド王エリザベス1世により幽閉される	
1583	エディンバラ大学創立	
1587	メアリー1世、エリザベス1世暗殺計画に荷担した罪により処刑	
1603	エリザベス1世逝去→スコットランド王ジェームズ6世がイングランド国王も兼ね改めてジェームズ1世として即位=同君連合	徳川家康、征夷大將軍に任命され、江戸に幕府を開く(慶長8年)
1613		ジェームズ1世の使節ジョン・セーリス来日: 駿府で家康に謁見しジェームズ1世からの書簡を捧呈→平戸に英国商館開設(慶長18年)
1623		平戸の英国商館閉鎖: 日本から英国人退去(元和9年)
1700	パナマに植民地を建設しようとしたダリエン計画失敗: スコットランド経済破綻	
1707	スコットランドとイングランドの合同により大ブリテン王国成立	

コラム 「悲劇の女王」 メアリー・スチュアート

スコットランド王からイングランド王も兼ねることとなったジェームズ1世ですが、彼の母親であるメアリー・スチュアートは、「数奇な運命をたどった」というにふさわしく、スコットランドでは「悲劇の女王」として記憶されています。

彼女は、生後わずか6日目に父親であるジェームズ5世が亡くなり、スコットランドの女王となりました。最初の夫君は、フランスの皇太子で、結婚式の翌年フランソワ2世として即位しましたが（そのためメアリーはスコットランドの女王にしてフランスの王妃となりました）、16歳の若さで病死し、メアリーは18歳で未亡人となりました。スコットランドに戻り、貴族の一人と再婚して生まれた子供が後のジェームズ6世（ジェームズ1世）です。しかし、貴族たちとの軋轢、特にスコットランドでもプロテスタントが優勢になりつつあるなか、カトリックの教えを尊ぶメアリーに対して、貴族たちの不満は高まり、彼らの反乱によって廃位に追い込まれます。1歳の息子が後を継ぎ、ジェームズ6世となりました。



メアリー1世

復位を望んだメアリーは、挙兵しますが敗れ、イングランドの女王であった従姉妹のエリザベス1世を頼り、イングランドに逃れます。しか



エリザベス1世

し、メアリーにもイングランドの王位継承権があることから、彼女を警戒したエリザベス1世により18年間幽閉されることとなりました。そして、最後にはエリザベス暗殺計画に荷担した罪で、処刑されてしまいました。

ところが、エリザベス1世は、生涯独身を通し、子供がいなかったため、彼女の死後、メアリーの息子であるジェームズ6世がイングランドの王位も継ぐこととなったのは、何とも皮肉な結果と言えましょう。

I 幕末期の日本・スコットランド関係

1. 日英修好通商条約調印書

安政 5（1858）年、江戸において調印された条約で、いわゆる「安政の五カ国条約」の一つをなします。



日英修好通商条約調印書

英国側全権は、スコットランド出身の第 8 代エルギン卿でした。彼は、海軍軍人であったアメリカのペリー、ロシアのプチャーチン、また 50 歳を過ぎたアメリカのハリス領事とは異なり、大英帝国の外交官としての輝かしい実績と経歴の持ち主でした。ジャマイカやカナダで総督を務め、特にカナダでは「建国の父」と評価されるほどの実績を残しました。

彼は、当初英国船籍を名乗るアロー号が清国官憲によって臨検の上、清国人船員 3 名が海賊の容疑で逮捕されたアロー号事件解決のため清国に派遣されていましたが、日米間に修好通商条約が締結された報に接し、急遽日本に派遣されました。

最初に到着した長崎から江戸や下田に移ることを幕府は必死に思いとどまらせようしました。しかし、アメリカのハリス総領事が前年江戸城で 13 代将軍家定に面会しているので、将軍に面会しないことには大英帝国の外交官としての面子が立ちません。そこで、将軍に献上する予定であった木造スクーナー蒸気船エンペラー号の献上を口実に江戸に乗り込むことに成功し、無事条約の調印にこぎ着けることができました。なお、この調印書は国の重要文化財に指定されています。



第 8 代エルギン卿

2. グラバーの叙勲関係

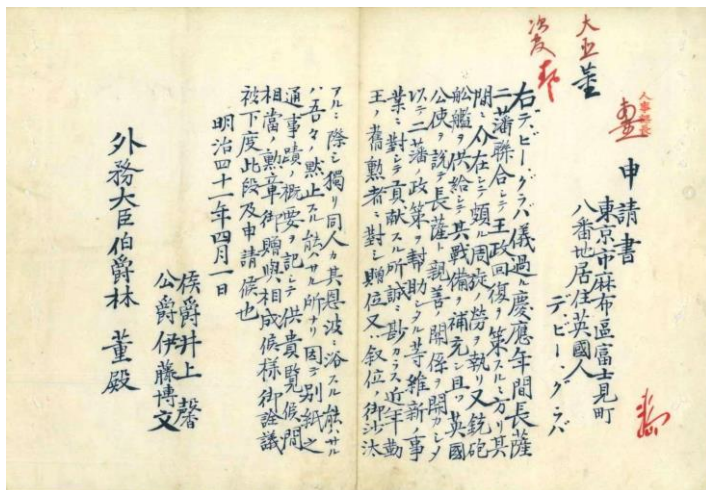


トーマス・グラバー

幕末期に来日したスコットランド出身のトーマス・グラバーは、安政6（1859）年、長崎に来港しました。当初は上海のデント商会の代理人でしたが、2年後の文久1（1861）年にはグラバー商会を開設し、やがては長崎屈指の貿易商となりました。

彼は、倒幕派諸藩に協力して明治維新の舞台裏で活躍しました。特に、長州五傑（伊藤博文、井上馨など）と呼ばれる長州藩から英国への留学生、薩摩藩からの15名の留学生の密航を手助けしました。

明治維新後も、蒸気機関車の試走、高島炭鉱の経営、電話線の開設、西洋式ドックの開設、日本初のビール会社（後の麒麟ビール）の設立など日本の近代化に様々な分野で功績を残しました。



伊藤博文、井上馨連名による
グラバーの叙勲申請書

明治41（1908）年には伊藤博文と井上馨が連名で、グラバーの長年の功績に報いるため勲章授与の申請書を林董外務大臣に提出しました。その結果、同年勲二等旭日重光章がグラバーに授与されました。

なお、この申請書に添付されていた理由書には、幕末期のグラバーの活動ぶりが8枚にわたって詳細に記

されています。坂本龍馬、中岡慎太郎、高杉晋作などとグラバーの交流が明らかになっています。

コラム ビクトリア女王とバルモラル城



バルモラル城

明治5（1872）年8月、岩倉使節団が欧米諸国訪問の途上英国のロンドンに到着しました。ビクトリア女王への謁見を希望しましたが、なかなか実現しませんでした。実は、女王は避暑のためスコットランドのハイランドにあるバルモラル城に移っており、謁見

が実現するまで3カ月以上も待ち、12月になっていました。外国からの使節に対していささか失礼に思える対応ですが、これには次のような悲しい事情がありました。

ビクトリア女王は、60年以上にわたる英国の国王としては今日まで最長の在位期間を誇るとともに、夫君アルバート公との夫婦愛の深さは有名です。1861年に最愛のアルバート公を失い、そのショックはあまりにも大きく、10年以上にわたりほとんど公務を果たせない状況が続きました。喪服に身を包み、しばし夫との思いでの満ちているバルモラル城に籠っていたのです。3カ月待たされて、ようやく岩倉使節団は、ロンドン近郊のウィンザー城で女王と謁見することがかないましたが、実は公務で外交使節団と会ったのはアルバート公が亡くなってから、この時が最初だったのです。バルモラル城はビクトリア女王が特に好んだので、アルバート公が結婚のプレゼントにしたといわれ、現在でも英国王室の離宮として使われています。現在のエリザベス女王もよく滞在し、ダイアナ妃が交通事故で急死した報を受けとった際もこのバルモラル城に滞在中だったことは有名です。



喪服を着ている
ビクトリア女王

なお、3カ月近くも待たされた岩倉使節団は、この時間を無駄にせずピトロッホリーなどのハイランドを含むスコットランド各地を視察して、大いに見聞を広めたということです。

Ⅱ 日本・スコットランド技術協力関係

3. ヘンリー・ダイアーの叙勲関係

岩倉使節団の一員であった伊藤博文には、日本に工業分野の学校を開設するために英国から教師陣を招致するための手配をする任務が与えられていました。ロンドンに到着した伊藤は、かつて長州五傑の一人として密留学した際の世話人であったヒュー・マセソンを訪ね、その人選を依頼しました。

ヒュー・マセソンは、当時工学分野で最高水準にあったグラスゴウ大学のランキン初代工部教授に相談した結果、日本に派遣されることとなった一人がヘンリー・ダイアーでした。



ヘンリー・ダイアー



工部大学校校舎

ダイアーは、明治6(1873)年、若干24歳で来日し、工部省のお雇い外国人として、工部寮および工部大学校(東京大学工学部の前身)の初代都検(実質的校長)に就任し、明治15(1882)年に日本を離れるまでの9年間、多くの日本人技術者を育て、さらにはスコットランドに留学生を送り続けました。

ダイアーは、机上の学問よりも実践を重んじるスコットランドの実学思想を強調し、彼の門下で高峰譲吉(アドレナリンの発明者)、辰野金吾(東京駅や日本銀行の設計者)、志田林三郎(日本の通信事業の育ての親)、三好晋六郎(洋式造船学の先達)、田邊朔郎(琵琶湖疎水、日本初の水力発電所に貢献)など様々な分野で活躍する人材が育ちました。

ダイアーの帰国後、日本政府は彼の功績に報いるため勲三等に叙勲しました。



ヘンリー・ダイアーの叙勲に関する
在英国森有礼公使からの公信

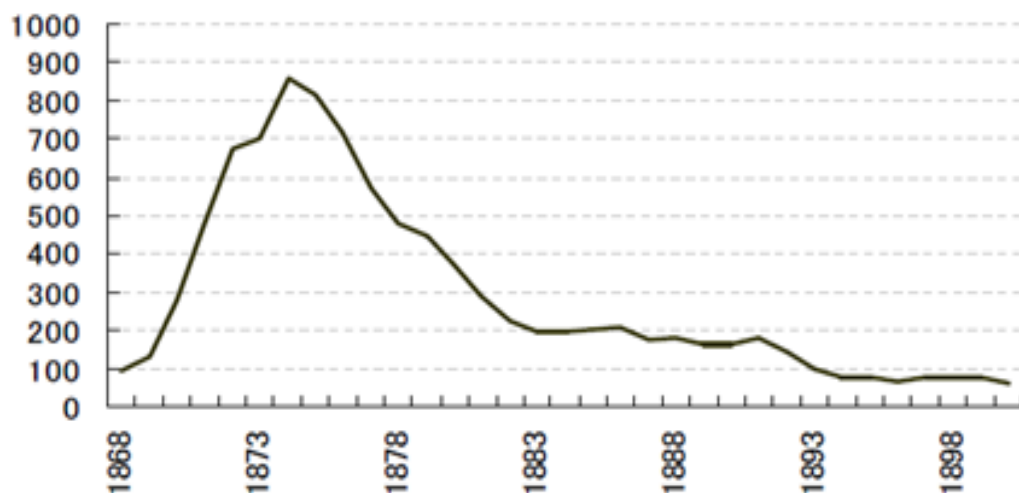


コラム お雇い外国人

日本は幕末から明治時代にかけて、外国の先端技術や文化を学ぶために多くの外国人を雇いました、政府が雇った人々を「お雇い外国人」と呼び、主に英国、米国、フランス、ドイツから招きました。また、日本からの留学生もこれらの国を中心に派遣されました。お雇い外国人と日本人留学生は、いわば車の両輪のように日本の近代化のために活躍しました。お雇い外国人については、膨大な先行研究がありますが、まだその全貌解明には至っていません。ここで紹介するデータは大まかでも、とりあえずのイメージをつかんでいただくためのものです。

第1図

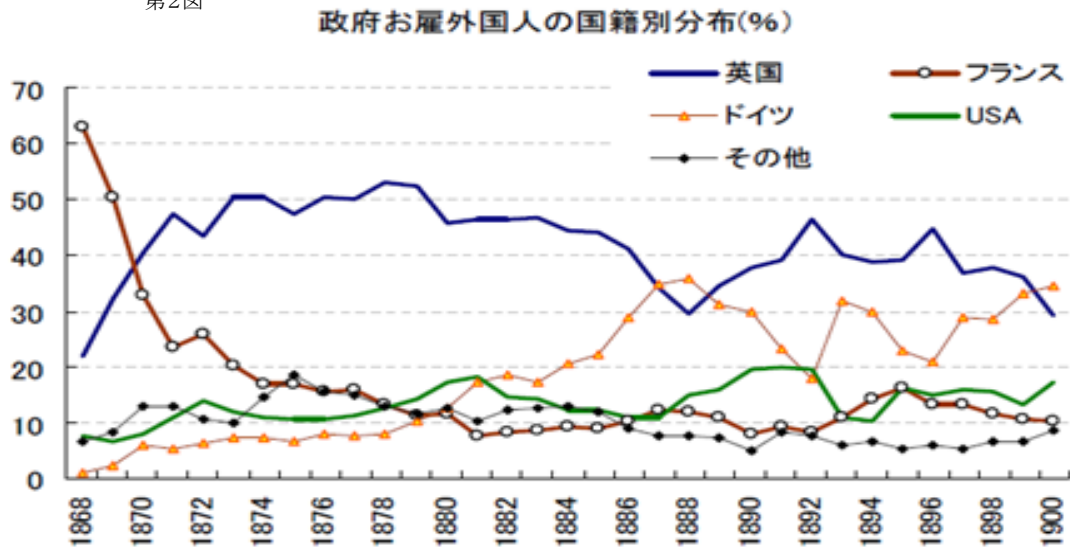
政府のお雇い外国人現存数(人/年)



出典 尾高煌之助「明治のお雇い外国人たちと産業発展の構図」(法政大学イノベーション・マネジメント研究センター編『法政大学創立者薩埵正邦(さったまさくに) 生誕 150 周年記念連続講演会—明治日本の産業と社会—』第 11 回講演録、2006 年 7 月)

第 1 図はお雇い外国人の大きな流れ、年毎の人数をグラフ化したものです。ピークが 1874～5 年であったことは、他の諸資料でもほぼ一致しています。しかし、絶対数については、この図が依拠した統計では約 850 人になっていますが、他の統計では約 530 人になっている例もあります。おそらく総数を延べ人数としているか否かによる違いかと考えられます。1883 年以降 200 名、1893 年以降は 100 名以下となり、次第にお雇い外国人の使命を終えたことが伺われます。お雇い外国人には大臣並みの高給を払っていたので、緊縮財政による政策的方針や、日本人留学生がそ

第2図



出典：図1と同じ

の役割を果たすことになったことが背景にあると考えられます。

第2図は国別の割合をグラフ化したものです。お雇外国人の割合の推移が分かります。これを見ると、明治初期には過半数を占めていたフランス人が数年で急速に減少し、それに代わり英国人が次第に増加し、一時期を除き平均して4割から5割を占めていることが分かります。また、1880年以降ドイツ人の割合が上昇しています。

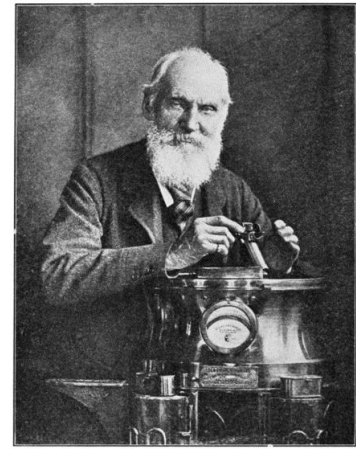
お雇外国人の絶対数については、諸説ありますが、上記図2をまとめる上で参照されたJones氏の研究によれば、明治政府によって約3,000人のお雇外国人が雇用されたとしています。割合から言えばその約半数が英国人ということになります。その英国人のうちスコットランド人がどの程度占めていたかについては、今後の研究を待つ必要がありますが、かなりの割合を占めていたことが推測され、約半数を占めていたという見方もあります。

特にヘンリー・ダイアーが勤め、お雇外国人の数が圧倒的に多かった工部省では、明治5(1872)年から明治18(1885)年までに雇われた544名のうち419名(約77%)が英国人であったとの資料もあります。その英国人には相当数のスコットランド人がいたことが容易に予想され、日本工業化におけるスコットランド人の存在の大きさが感じられます。

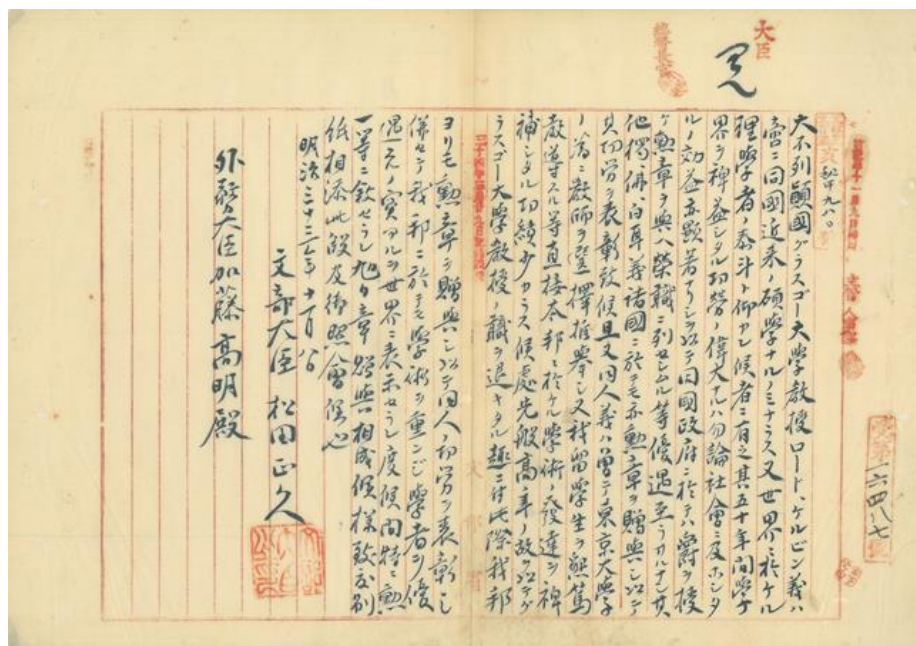
4. ケルビン卿の叙勲関係

グラスゴウ大学教授ケルビン卿は、絶対温度理論の確立など物理学の発展に大きな功績を残す人物として知られています。

他方、日本との関係では、訪日経験こそありませんが、ダイアー等多くの優秀な人材を日本に送るため尽力し、グラスゴウ大学の日本人留学生の世話を懇切に続けました。日本政府は、長年にわたり日本の学術発展に大いに貢献したことに感謝し、明治34（1901）年、勲一等旭日章を贈りました。



ケルビン卿

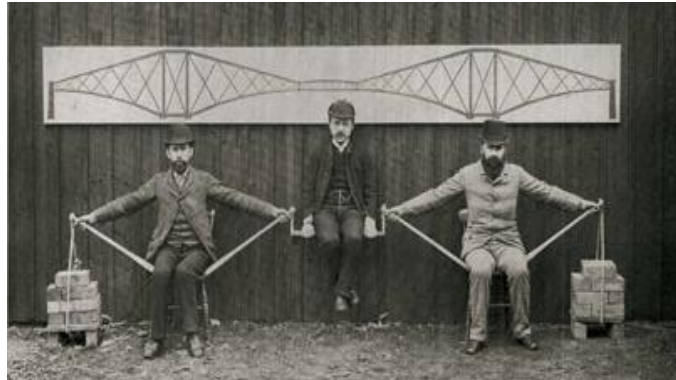


ケルビンの叙勲を伝える
松田正久文部大臣より加藤高明外務大臣宛公信

5. フォース鉄道橋と渡邊嘉一

スコットランドに渡り、活躍した日本人技術者として渡邊嘉一（わたなべ かいち）の名が挙げられます。彼は、工部大学校でヘンリー・ダイアーの教えを受け、優秀な成績で卒業した後、明治 17（1884）年に、グラスゴウ大学へ留学、同 19（1886）年に卒業しました。

卒業後もスコットランドにとどまり、当時建設途中だったフォース鉄道橋の工事監督を任されました。渡邊自身は、同鉄道の完成を待たずに帰国し、参宮鉄道、京王電気鉄道会社の社長を務め、日本の鉄道発展に大きな足跡を残しました。



フォース鉄道橋の原理を示す人間橋
中央が渡邊嘉一 両脇は設計者

フォース鉄道橋は、明治 23（1890）年に完成しますが、ほぼ同時期に建設されたパリのエッフェル塔の 7 倍以上の鉄鋼を用いて作られ、当時の建築技術の最高峰を示したと言っても過言ではありません。19 世紀の「土木工学の奇跡」、「世界第 8 番目の不思議」と讃えられ、スコットランドの象徴的存在となっています。

そのため、平成 19（2007）年よりスコットランドで発行されている 20 ポンド紙幣には、フォース鉄道橋の建築理論を示す渡邊嘉一の姿が描かれています。



現在のフォース鉄道橋



左紙幣右上部

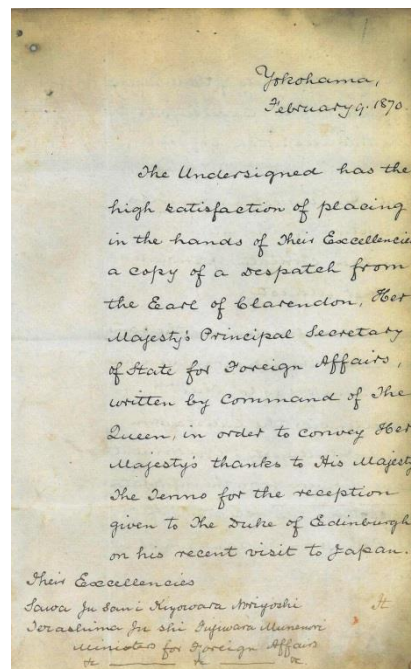
スコットランドの 20 ポンド紙幣

Ⅲ 皇室外交とスコットランド

6. 皇室外交の始まり＝エディンバラ公の来日

日本の皇室外交は、明治2（1869）年にビクトリア女王の次男エディンバラ公が訪日され、翌明治3（1870）年東伏見宮彰仁親王（後の小松宮親王）が英国にご留学したことに始まりました。

このエディンバラ公の来日は、我が国にとって初のヨーロッパからの皇族訪問となりましたが、万事つつがなく進み、パークス駐日英国公使からは後日エディンバラ公滞日中の接遇ぶりにつき謝意が伝えられました。



謝意を伝えるパークス書簡

7. 裕仁皇太子（後の昭和天皇）のスコットランド訪問



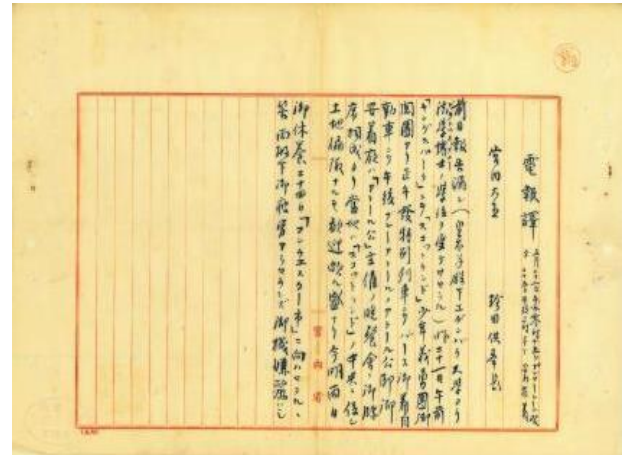
訪欧記念絵はがき ※中村繁夫氏蔵
訪問地としてエディンバラが記されています

大正10（1921）年の裕仁皇太子（後の昭和天皇）によるご訪欧は、日本の皇太子による初の大がかりな外遊でした。3月3日に日本を出発され、9月3日にお戻りになるまで、英国、フランス、ベルギー、オランダ、イタリアをご訪問し、当時ま

だ20歳であった若き皇太子にとって大変印象深かったご様子で、後々まで折りにふれこの訪問について語られたほどでした。

最初のご訪問国は英国でした。

英国ご訪問にあたっては、スコットランドも訪れになり、アソール公のブレア城にご滞在しました。その時に催された歓迎の晩餐は、地域の住民も招かれ、アソール公は、気さくに人々と一緒に歌ったり踊ったりしていたそうです。その姿をご覧になった皇太子は、国民とともに歩む皇室の在り方を学ばれたと言われています。

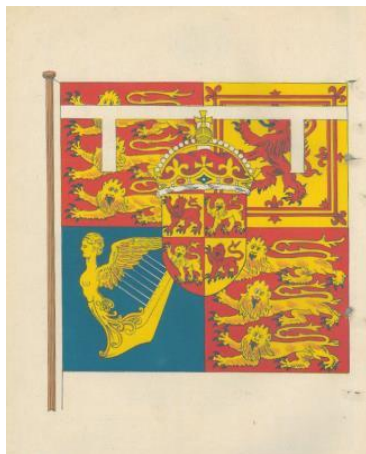


宮内省より外務省に送られた電報写し
アソール公主催の晩餐会に出席したことが
報じられています

8. 英国皇太子の答礼訪日

裕仁皇太子の訪欧の翌大正 11 (1922) 年、答礼として英国皇太子、後のエドワード 8 世が来日されました。

裕仁皇太子とは、前年英国でお会いしているので、再会を喜び合い、また日本各地をご訪問しましたが、その気さくなお人柄は各地で大歓迎されました。



Far East 誌の英国皇太子来日記念号

左ページにはスコットランドの紋章も記されています

9. 明仁皇太子のスコットランド訪問

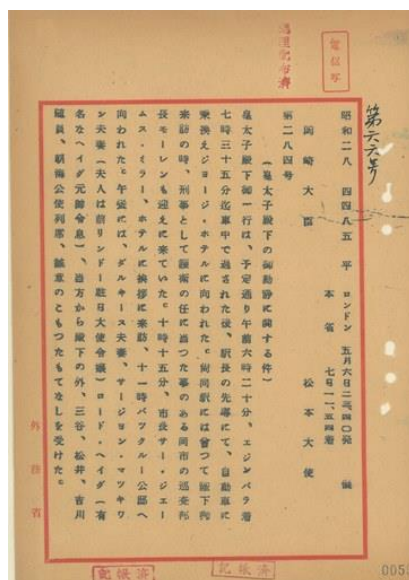
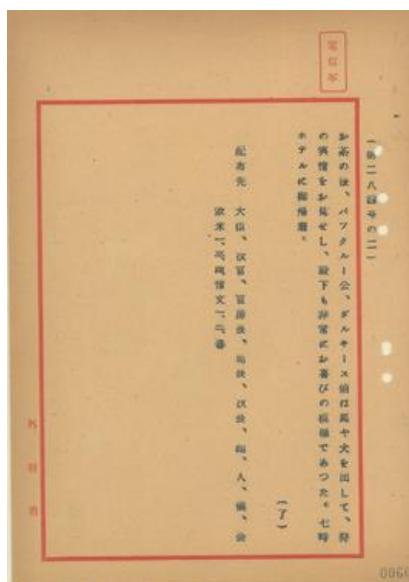
第二次世界大戦後の昭和 28（1953）年、エリザベス女王の戴冠式にご出席するため明仁皇太子（後の今上天皇）が英国を訪問されました。

戦後間もない時期でしたので、反日気運がまだ十分には冷めておらず、日本側では皇太子のご訪問がそのような気運を再燃させるのではないかと心配する向きもありました。

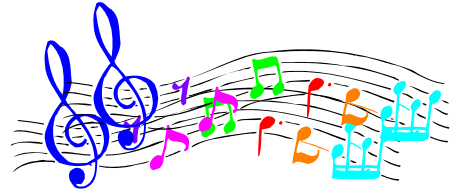
しかし、チャーチル首相以下関係者一同の様々な配慮により、無事ご訪問を終えることができました。

このご訪問にあたっては皇太子一行はエディンバラを訪れ、かの地で温かいもてなしを受けました。スコットランド貴族の名門バクルー公は、熱心にもてなし、特にハンティングを趣味とする公爵は、多数の狩猟犬と馬による調教の様子を披露し、皇太子は大変楽しまれました。

父君（昭和天皇）とゆかり深いブレア城にもお立ち寄りになられ、時のアソール公（先代の弟君）から歓迎されました。



スコットランドにおける温かいもてなしを伝えている
在英国松本俊一大使より岡崎勝男外務大臣宛電報



コラム 蛍の光

明治初期、欧米諸国から多くの楽曲が日本に伝わり、日本人に親しまれてきましたが、その中でも「蛍の光」は、外国の民謡ということを大部分の日本人が忘れていたと言っても過言でないほど日本人になじみ深い楽曲です。

「蛍の光」の歌詞は、1788 年、スコットランドの国民的詩人であるロバート・バーンズが古くから伝わるスコットランドの伝承歌などをもとに書いたと言われています。しかし、当初歌われていたメロディーは、間もなく歌われなくなり、それに代わったメロディーこそ、現在私たちがなじんでいる曲です。メロディーが確立した後、現在スコットランドで一般的に歌われている歌詞に落ち着くまで、少なくとも歌詞が 4 回変わったと言われています。



ロバート・バーンズ

さらに、日本で歌われている歌詞は、スコットランドで歌われている歌詞とは全く違う内容です。日本では別れを惜しむ内容になっていますが、現在スコットランドで歌われている歌詞は友情と再会をテーマにしている、別れを示す言葉は一言もないのです。そのため、日本では一抹の寂しさや悲しみを催させる同じ楽曲が、スコットランドでは、隣の人と手を交差させて組みながら歌い、歌がすすむにつれてテンポを上げていき、人々の間に笑顔があふれてくるというのですから不思議といえは不思議です。

日本語版の別れの曲としての「蛍の光」が普及し始めたのは、明治 15 (1882) 年に出版された初の音楽の教科書である『小学唱歌集 初編』に収録された時からではないかと言われています。私たちがなじんできた「蛍の光」の歴史はここから始まった可能性が高いと思われます。『小学唱歌集』明治 17 (1884) 年まで、第 3 集まで出版されていますが、その中に収録された 90 曲のうち、9 曲がスコットランド民謡であり、さらにそのうちの 6 曲がバーンズの作詞によるものであることは特筆に値します。日本とスコットランドの精神風土の近さを象徴しているといつて



昭和天皇もご滞在されたブレア城

も過言ではありません。

20 世紀に入ると、卒業式を中心に、「蛍の光」は日本各地で歌われるようになりました。政孝がカウン家を初めて訪問した際に、一緒に歌を歌おうということになり、曲は何にするか相談しました。リタさんは「Auld Lang Syne＝蛍の光」はどうだろうと言いました。これに対して政孝は、「悲しい

別れの歌」と評し、リタさんを驚かせます。そして、誤解が解けた後、二人は「蛍の光」を何度も演奏し、歌ったそうです。

裕仁皇太子も（後の昭和天皇）、スコットランドで「蛍の光」を歌われました。大正 10（1921）年の外遊の際にスコットランドのアソール公のブレア城に滞在され、その際にアソール公が主催した晚餐会に地域住民が招かれ、彼らに混じって「蛍の光」を歌われたというのです。

このようにきわめて多彩な歴史的経緯をたどり、「蛍の光」は今日まで歌い継がれてきました。二つの事例が物語るように、この楽曲には一緒に歌うことによって、国境を越えた友愛を感じさせる魅力があるのではないのでしょうか。



○参考

「蛍の光」日本語とスコットランドバージョンの比較

蛍の光 日本バージョン	Auld Lang Syne (遠い昔) スコットランドバージョン
一、ほたるの光、窓（まど）の雪。 書（ふみ）よむ月日、重ねつつ。 いつしか年も、すぎの戸を、 明けてぞ、けさは、別れゆく。 二、とまるも行くも、限りとて、 かたみに思う、ちよろずの、 心のはしを、一言（ひとこと）に、 さきくとばかり、歌うなり。	1. 古い友だちを忘れるはずがない いつだって君のこと 思い出していたよ 古い友だちを忘れるはずがない ずっと昔の、あの頃のことを さあ、遠い昔のために なつかしい日々のために 友情の酒をかたむけあおう 遠い昔のために (略) 4. ぼくの手と君の手を さしだしあおう そしてあふれる友情の酒を飲もう 遠い昔のために 5. 大きなコップで飲み干せよ 僕もちろん飲みきるよ これが、二人の友情のあかしだ はるか昔からの

IV 竹鶴政孝関係

10.大正7年の旅券および旅券発給記録

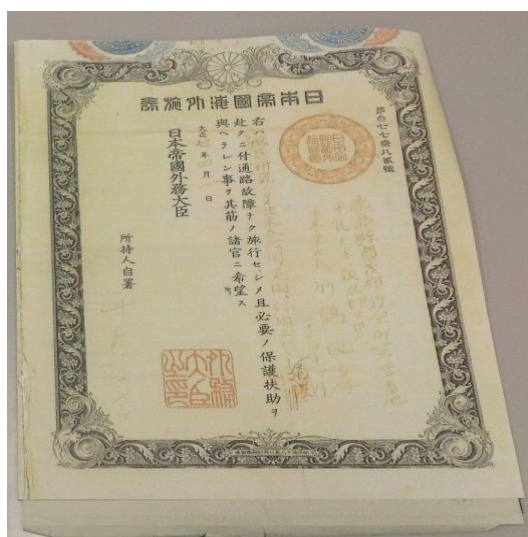


スコットランド渡航前撮影
※アサヒビール社提供

政孝は、広島県の生家が製塩業とともに酒造を営んでいたこともあって、早くから酒造に興味を抱き、大阪高等学校（現在の大阪大学工学部）の醸造科に学びました。在学中から洋酒の製法に関心を寄せ、大正5（1916）年3月、当時大阪で洋酒製造を行っていた摂津酒造を訪ね、卒業前にもかかわらず入社を許されました。

当時の摂津酒造を含む日本の洋酒業界では、アルコールに水を加え、カラメルで色をつけ香りのエッセンスを加えたイミテーション・ウイスキーを作るのが精一杯でした。摂津酒造の阿部喜兵衛社長は、国産の本格的ウイスキーを製造するには、スコットランドに人を派遣してスコッチ・ウイスキーの製法を一から学ばせる必要があるとの考えに至りました。そこで、入社してわずか1年ほどの新人でしたが、研究意欲旺盛な政孝を見込み、スコットランド留学を命じました。

大正7（1918）年4月、政孝は単身神戸港を出発、スコットランドに向かいました。



竹鶴政孝旅券（複製）アサヒビール社提供

三七七二	旅券番號
竹鶴政孝	氏名
平民	族稱
三男	身分

旅券発給記録

11. グラスゴウ大学夏期講座の受講証

政孝は、スコットランドに留学するにあたり、漠然とエディンバラ大学かグラスゴウ大学で学ぼうと考えていました。しかし、スコットランドに到着後、エディンバラ大学には文科系学部しかないことを知り、グラスゴウ大学で聴講生として応用化学を学ぶことにしました。

グラスゴウ大学夏期講座受講証
(原本はグラスゴウ大学所蔵 画像提供 北政巳氏)

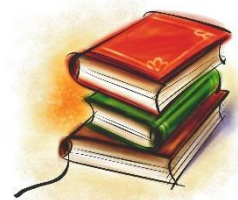


カウン家の前で (大正8年頃)
※アサヒビール社提供

グラスゴウは工業の中心地であり、周囲にはウイスキー工場も多数あるので、ウイスキー作りを学ぶには最適な地と思われました。しかし、実際に大学の授業に出てみますと、理論的なことはすでに日本で学んだ内容と重複することも多かったので、ハイランドのウイスキー蒸留所で実地にウイスキー作りを学び、ウイスキー製造の閑散期にあたる夏にはグラスゴウ大学での勉強に戻りました。

大正 8 (1919) 年の夏期講座の受講許可証がグラスゴウ大学に残っています。この受講許可証に記された住所は、後に結婚することとなるリタさんの家の住所となっているので、この時期既にリタさんの家に下宿していたと思われます。

コラム 夏目漱石とスコットランド



長期間の海外生活は、時として精神的な悪影響を及ぼすことがあります。政孝もスコットランド留学中に、ある種の「ホーム・シック」に苦しめられたことを回想しています。政孝の場合にはリタさんとの出会いが「ホーム・シック」から彼を救いました。

文豪で名高い夏目漱石も、明治 33 (1900) 年からの 2 年間のロンドン留学中、著しい精神的落ち込みに襲われました。そして、帰国間近のスコットランド訪問こそ、彼を救うことになりました。スコットランドのピトロッホリーという風光明媚な村を訪ね、日本びいきの英国人の歓待を受けました。美しい自然と大都会のロンドンでは出会えなかったタイプの英国紳士に巡り会うことができ、大いに癒され、蘇生したということです。

紫色のヒースで覆われた大地を通り、褐色の水が流れる小川とその水面にはえる紅葉が都会の喧騒に疲れ果てた漱石の心をどれほど癒したかは計り知れません。なお、ピトロッホリーには、昭和 28 (1953) 年、エリザベス女王の戴冠式ご出席のため英国をご訪問された明仁皇太子（現在の今上天皇）もお立ち寄りになっています。



夏目漱石
『漱石の思ひ出』より



漱石が滞在した屋敷
(現・ダンダーラックホテル)



秋のピトロッホリー

12. 政孝の研修報告ノート



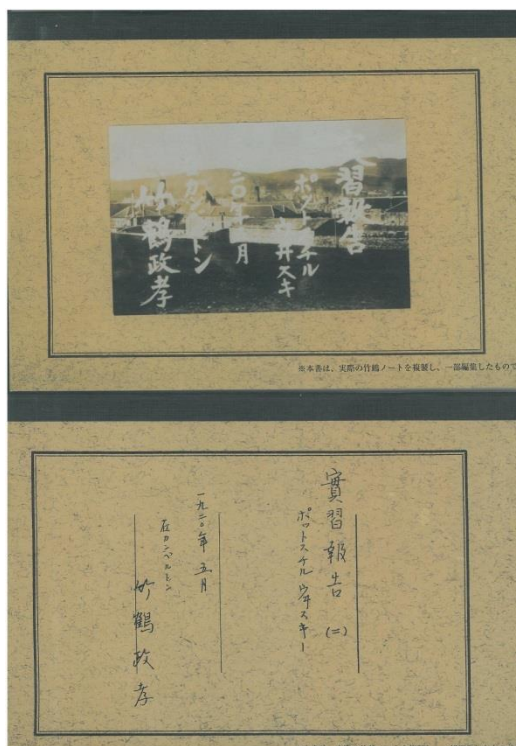
イネス博士と一緒に
※アサヒビール社提供

政孝は、積極的に各地の蒸留所で研修を重ね、ウイスキー作りの現場で多くのことを学び続けました。政孝の表現を借りれば「皮膚呼吸的といおうか、肌で感じた研究」が続きました。

そのような生活の中で重要な出会いとなったのが、ローランドのキャンベルタウンのモルトウイスキー工場の工場長であったイネス博士でした。博士からの教えによって、初めて「体系的、学問的に、ウイスキーについて学び得ることができた」ということです。

政孝の後年の言葉ですが、人間には2つのタイプがあり、「一つは自分の運命に挑戦して生きていくにしても、ほとんど自分の力で、そのとびらを切り開いていく型と、もう一つは周囲の人の好意や協力で、自分の進む機会が与えられ、とびらの方からおのずと開いていってくれる型であり、私はどちらかというと後者の方に属しよう」と言っていますが、イネス博士との出会いが脳裏をよぎったのではないかと思います。

そこで、それまでの体験を踏まえ、摂津酒造へ提出すべき報告書を二冊のノートにまとめました。日本に帰って自分の手でウイスキーを作ることができるという自信が彼の中に芽生えたのでした。



政孝の研修報告ノート（複製）

※アサヒビール社提供

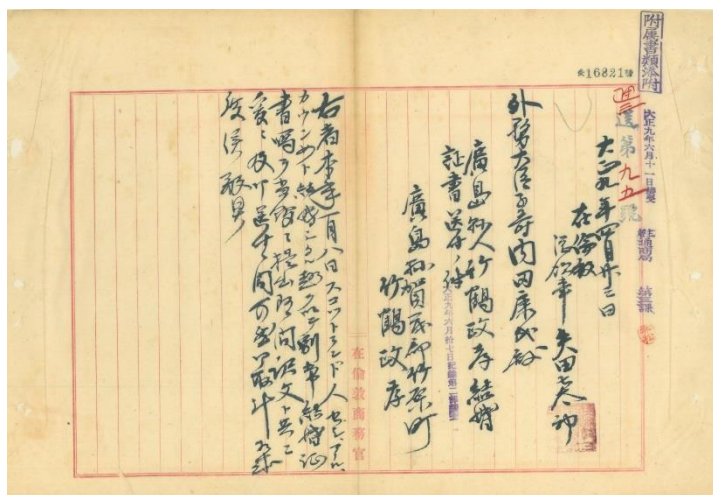
13.結婚証明書送付書類

政孝はグラスゴウ大学図書館を積極的に利用し、ウイスキー関係の図書は全て読破するほど通り詰めました。そのような日々、見慣れぬ外国人に興味をもった一人の女子学生が話しかけてきました。その彼女こそ、リタさんの妹エラさんでした。エラさんの招待でカーン家を訪れた政孝は、リタさんとの出会い「一目惚れ」したということです。リタさんも政孝に好意を抱くようになりました。

ところが、二人の前には、双方の家族の猛反対という大きな壁がありました。二人の出会いのきっかけを作ったエラさんですら結婚には反対していたのです。それでも二人の意思は固く、ついに大正9（1920）年1月8



カウン家の4兄弟
左から妹のルーシー、弟のラムゼー、
妹のエラ、そしてリタ
※アサヒビール社提供



二人の結婚証明書を外務省に伝える報告書
(在ロンドン総領事発 外務大臣宛)

日、グラスゴウのカルトン登記所で夫婦になったことを宣誓するという形で結婚しました。

これは、教会で結婚式を挙げることが普通であった当時の常識からはかなりかけ離れ、二人の結婚がいかに困難であったかを物語っています。二人は、在ロンドン日本総領事館に結婚証

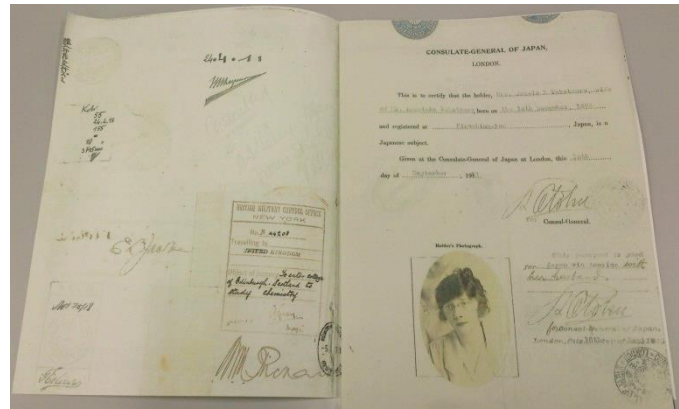
明書を提出し、矢田七太郎総領事より外務省を経て、政孝の本籍地である広島県竹原町に送られました。

14. リタさんのパスポート

政孝とリタさんの結婚に驚いた摂津酒造の阿部社長は、政孝の両親とも相談した上で大正9年(1920)夏、急遽英国に向かいました。しかし、実際にリタさんに会い、その人柄に触れ、阿部社長も二人の結婚を祝福する気持ちに変わりました。

グラスゴウのセントラルステーションホテルで牧師立ち会いのもと、阿部社長らが出席してささやかな結婚式が行われました。

そして、リタさんには、在ロンドン日本総領事館より日本のパスポートが発給され、二人は日本に向かいました。帰国後、阿部社長の仲介もあって竹鶴家では二人の結婚を認めることとなり、二人の歓迎会も催されました。



リタさんのパスポート
政孝のパスポートに添付されたもの（複製）
※アサヒビール社提供



竹鶴家が催した二人の歓迎会
※アサヒビール社提供



コラム ジェシー・ロバータ（リタ）・カウン

(1896.12.14～1961.1.17)

政孝が生涯の伴侶に選んだジェシー・ロバータ・カウン、通称リタさんは、明治 29 (1896) 年 12 月 14 日、スコットランドはグラスゴウ郊外のカーカンテロフに生まれました。父親のキャンベル・カウンは開業医で、妻ロビーナとの間にリタに続き、エラ、ルーシーの二人の娘、そして末っ子で長男のラムゼイ 4 人の子どもに恵まれました。

幼い頃のリタさんは、病弱で通学も困難なので、両親は個人教授を依頼して学ばせたほどでした。そのためか外出を好まない内気な少女に育ち、父親を心配させましたが、グラスゴウ学院に通い始めた頃から、健康を取り戻し、少女時代から好んだ英文学、フランス



ゴルフに興じる
※アサヒビール社提供



リタさんの父親カウン医師
※アサヒビール社提供

語を本格的に学び、また幼い日より習い続けていたピアノの腕はプロ並みと評価されるほどでした。また、当時の女性としては珍しく車の免許を取得し、開業医である父親の往診にはドライバーを務め、ゴルフもかなりの腕前になり、病弱だった少女は、いつしか聡明で活発な才色兼備の淑女へと成長しました。

そのような彼女の運命を大きく変えたのが第一次世界大戦でした。彼女には結婚を誓った相手がいたのですが、出征して戦死してしまっただけです。さらに

「医は仁術を」絵に描いたように献身的に街の人々を診療し続けた父親が 48 歳の若さで急死してしまいました。

その後でした。東洋の国日本からウイスキー作りを学びに遙々スコットランドに赴いた青年政孝と出会ったのは。



左よりリタさんの妹のルーシー、エラ、母親のロビーナ
※アサヒビール社提供

コラム 竹鶴政孝 (1894.6.20～1979.8.29)

竹鶴政孝は明治27(1894)年6月20日、広島県竹原町で製塩業と酒造業を営む竹鶴敬次郎とチョウ夫妻の四男五女の三男として生まれました。幼いころから大変好奇心旺盛かつ活発な少年で、8歳の時には階段から落ち、顔面を強打して、7針も縫う大けがをしました。しかし、後年本人は、その結果鼻が大きくなり、他人が感じられないようなかすかな香りもかぎとれるようになり、ウイスキー作りに役立っていると豪語しました。



竹鶴家集合写真(前列中央が政孝)

※アサヒビール社提供



池田勇人総理と政孝

※アサヒビール社提供

忠海(ただみ)中学に進むと、柔道部に入り、主将を務めるほどの腕前になりますが、実は後年この柔道こそ、政孝とリタさんを結びつけるきっかけを作ったのです。リタさんの妹エラさんは、グラスゴウ大学図書館で政孝を見かけ話しかけると日本人だというので、弟のラムゼイに柔道を教えて欲しいと家に招いたのです。

なお、中学三年生のときから中学の寮に入りましたが、同じ寮に暮らした後輩の一人が後の総理大臣池田勇人でした。池田は、政孝を「怖い先輩」だったと評しつつ、総理大臣になっても「日本にも美味しいウイスキーがある」と言って、外国の高官にも政孝の会社のウイスキーを勧めるほど、生涯変わらない友人でした。

実家が酒造業を営んでいたので、幼い頃から酒蔵を遊び場のようにしていた政孝は、二人の兄が家業を継ぐのを拒んだこともあり、大阪高等工業(現大阪大学)の醸造科に進みました。しかし、生来の好奇心旺盛さが手伝ったのか、洋酒作りに興味を持ち、洋酒作りを積極的に展開していた摂津酒造に入社し、人一倍積極的で丁寧な仕事ぶりが認められ、スコットランドへウイスキー留学という大任を任されたのでした。

コラム 琥珀色の夢のものがたり

日本にウイスキーの製法を伝え、「スコットランド製の本場のウイスキーに劣らないウイスキーを日本で作りたい」。これは政孝の「琥珀色の夢」となる一途な思いでした。そして政孝の「琥珀色の夢」を実現する上で、リタさんは不可欠の存在でした。

政孝がリタさんにプロポーズした時に、「貴方が望むのであればスコットランドに留まってもいい」と言いましたが、リタさんは、「貴方の夢は日本でウイスキーをやることではないのですか。日本に行って一緒に作りましょう」と応えたとき、「琥珀色の夢」が「二人の夢」となったのでした。そして、共通の夢を持つことによって政孝の夢は昇華され、二人は「日本とスコットランドの心の架け橋」をも築いたのです。

政孝がウイスキー作りに最適の地として選んだ余市とリタさんの故郷である東ダンバートン・シャーが姉妹都市となったことは、二人が築いた「心の架け橋」を一層堅固なものとしています。リタさんに因んで名付けられたリタロード、リタさんが作ったリタ幼稚園の存在は、余市の



現在のグラスゴウ大学

人々に今も二人の夢を伝え続けています。竹鶴政孝の養子である威が平成 14 (2002) 年にスコットランドを訪問した際、グラスゴウ大学にも立ち寄り、若き日の政孝が同大学で学んだことに対する感謝の気持ちを込めて 5 万ポンドを寄付し、その結果「竹鶴威基金」が創設されました。化学学部の優秀な学生に対する奨学金制度として、現在に至るまで多数の有望な研究者を輩出

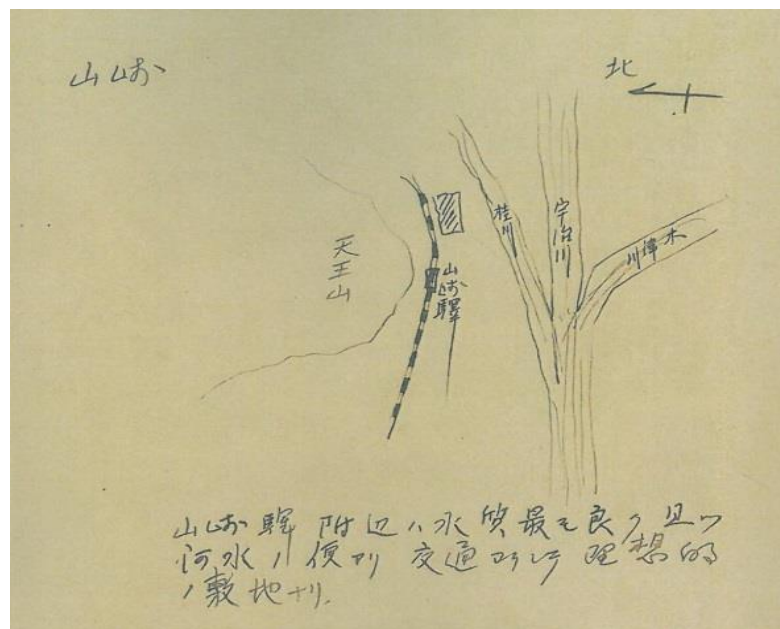
し続けています。養父母が育んだ「心の架け橋」をさらに強固にしたと言えるでしょう。

「スコットランド製の本場のウイスキーに劣らないウイスキーを日本で作りたい」という政孝の「琥珀色の夢」も、名実ともに現実のものとなりました。平成 13 (2001) 年、世界唯一のウイスキー専門誌『ウイスキーマガジン』主催のウイスキー鑑定イベントで、政孝の遺志を継いで作られたウイスキーが世界一に選ばれました。

15. 山崎蒸留所建設

日本にウイスキー産業を根付かせることを夢見つつ、政孝は大正 9 (1920) 年にリタさんと帰国しました。その政孝にウイスキー作りの機会を与えることとなったのが、国産ウイスキー製造を考えていた寿屋(現サントリー)の鳥井信治郎社長でした。鳥井社長は、当初英国から専門家を招聘する交渉をしましたが、逆にスコットランドでウイスキー作りのことを学んだ政孝のことを教えられ、早速白羽の矢を立てたのです。

大正 12 (1923) 年 6 月、ウイスキー製造の責任者として寿屋に迎えられた政孝は、蒸留所の敷地にふさわしい土地を求め、各地を調査した結果、スコットランドと自然環境が近い北海道こそ最適の地と考えました。しかし、鳥井社長には既に蒸留所設置の候補地がありました。寿屋の本社がある大阪府の山崎です。山崎は、ウイスキー作りに欠かせない水質が非常に良好であり、交通の便も良く、広報戦略上、購買者が容易に工場見学に訪れることが可能でした。政孝も山崎を気に入り、蒸留所作りには理想的な土地と思うに至りました。



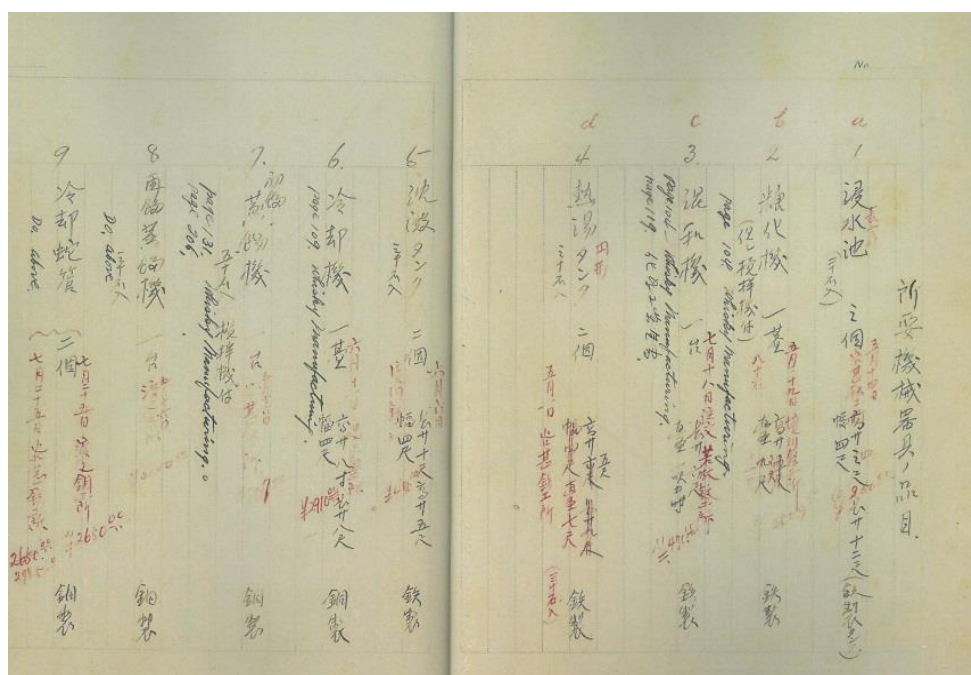
山崎付近の手書き地図 (複製)

※アサヒビール社提供

16. 山崎蒸留所始動へ

山崎の蒸留所建設に関しては、鳥井社長は建設の実務には口を出さず政孝に一任しました。蒸留所のレイアウト、必要機材の選定・購入の手配、実際の作業をする技術者の確保など、政孝は多忙を極めました。当時の日本にウイスキーの製造に携わった経験者は、政孝一人でしたので、現場の作業には日本酒製造の豊富な経験を有する杜氏（とうじ）、蔵人（くらびと）をスカウトすることになりましたが、政孝の生家が酒造業を営んでいたことが役立ちました。郷里広島県竹原町の隣町三津町で日本酒製造に携わっていた優秀な杜氏をスカウトすることができたのです。

大正 13（1924）年 4 月に起工式を行い、同年 11 月 11 日には竣工式を無事に終え、12 月 2 日にはウイスキー作りの第一歩である麦芽製造が開始されました。政孝は、陣頭指揮をして作業を進めていきました。



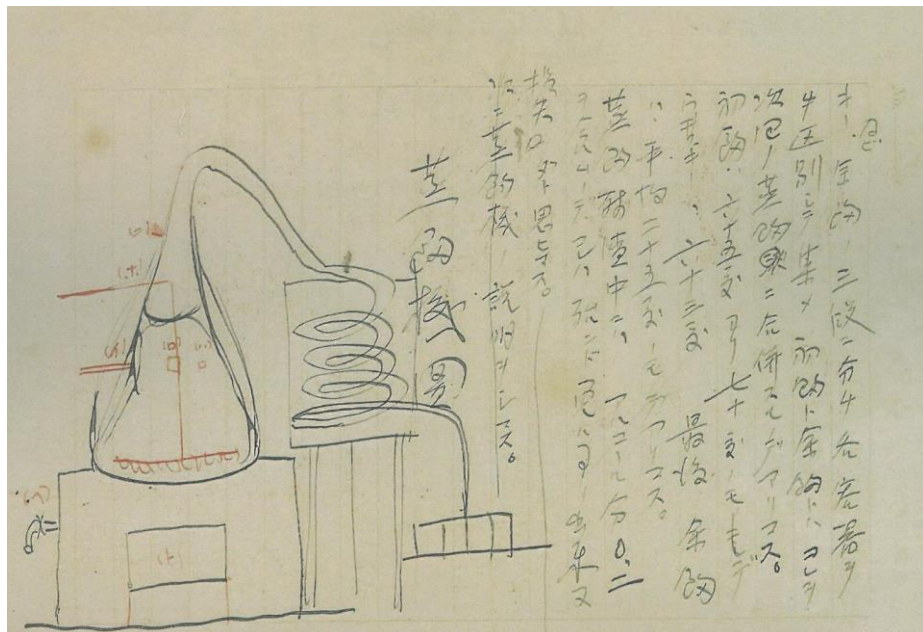
山崎蒸留所必要機械、器具一覧（複製）

※アサヒビール社提供

17. 苦勞したポットスチル

ウイスキー造りの課程で蒸留は特に重要であり、蒸留に用いる釜＝ポットスチルは最も重要な器材といえます。発酵を終えた原液がこのポットスチルの中で蒸留を重ね、ウイスキー原酒となります。そして、原酒は樽に詰めて貯蔵庫で熟成されていきます。

大阪の鉄工所および銅工所に発注した二基のポットスチルは、それぞれ高さ 5.1 メートル、直径 3 メートル以上もあり、山崎の蒸留所の搬入には大変苦勞しました。淀川を蒸気船でさかのぼり、陸揚げした後は馬にひかせましたが、途中東海道線の線路があり、それを越える作業は困難を極めました。鉄道側と相談を重ね、汽車の時間間隔の長い夜中が良いだろうということとなり、上り最終列車の通過後に線路を越える一大作業を無事終え、ようやく工場に搬入しました。



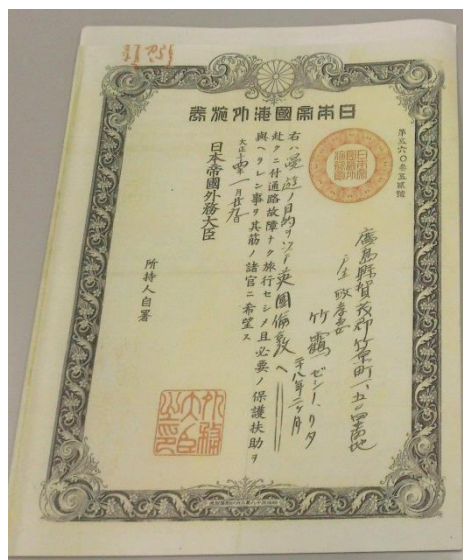
ポットスチルに関するメモ（複製）

※アサヒビール社提供

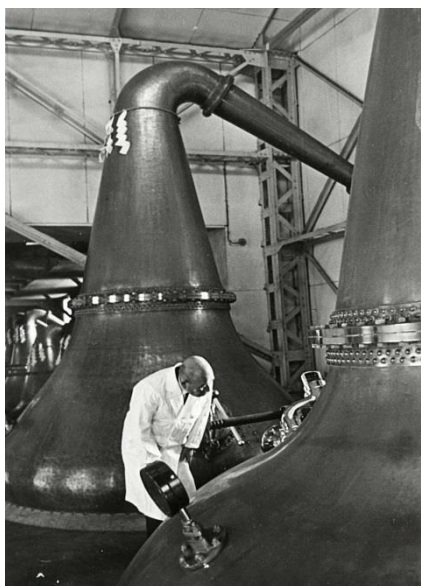
18. リタさんの里帰り

当初は、二人の結婚を認めなかったリタさんの家族もやがては認め、大正14（1925）年には、政孝とリタさんはスコットランドを訪れています。

この旅行には、リタさんの里帰りと同時に政孝には重要な仕事がありました。日本に帰って実際にウイスキーを作ってみると、設置したポットスチルについて疑問が生じました。石炭をたぐところから釜の底までの距離をどの程度とればよいのか、距離によって熱が変わってくるので、ウイスキー作りに直接関わってくる大きな問題でした。



大正14年のリタさん旅券（複製）
※アサヒビール社提供



余市の蒸留所でポットスチル
をのぞき込む政孝
※アサヒビール社提供

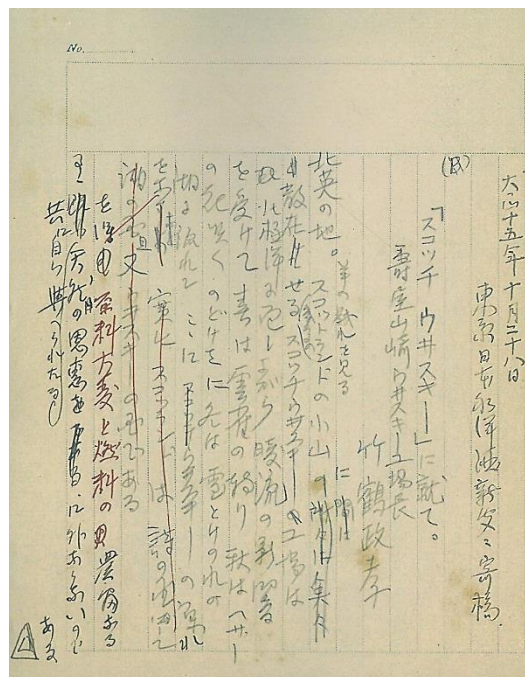
スコットランドで、ポットスチルのたき口に入って、真っ黒になって距離を測ってきたそうです。

後年政孝は、「よいウイスキーづくりにトリックはない」という言葉を残していますが、石炭をたぐところから釜の底までの距離を測るためにわざわざスコットランドまでも行く、まさに「トリックはなく」誠実な努力こそよい結果を招くということではないでしょうか。

19. 国産初のウイスキー誕生

ウイスキーは、時間をかけて熟成させなければならないので、商品として市場に出るまでに数年かかります。国産ウイスキー第一号の「サントリーウキスキー白札」の発売が開始されたのは、昭和4（1929）年でした。値段は、4円50銭、当時輸入ウイスキーが1本5～6円ほどで売られていました。

この山崎蒸留所で製造を開始してから出荷するまでの間にあたる大正15（1926）年10月28日の「東京日本和洋酒新聞」に、政孝は「スコッチ ウキスキー」に就て」というエッセーを寄稿しています。その冒頭で、スコッチ・ウイスキーがスコットランドの豊かな自然の恵みにより生み出されたことが強調され、彼のスコットランドへの敬意と感謝の気持ちが伝わってきます。



エッセー「スコッチ ウキスキー」に就て」草稿
(複製) ※アサヒビール社提供

20. リタさん最後の里帰り

昭和6（1931）年、リタさんは二度目の里帰りをしました。この旅行は、寿屋の鳥井信治郎社長より、彼の長男吉太郎に本場のウイスキー作りを見せて欲しいと頼まれたことから実現しました。この前の年、政孝とリタさんは生後間もない女の子、房子（後にリマと改名）を養女として迎えていましたので、その子も連れての旅行となりました。リタさんにとっては、これが最後の里帰りとなりました。

太平洋戦争勃発後、リタさんの生活は辛いものとなりました。警察に疑いの目で見られ、心ない人からは石を投げられ、政孝をはじめ周囲の人々はスコットランドに帰ることを勧めるほどでした。しかし、リタさんはかたくなに「日本人」であることを貫き、決してスコットランドに帰ろうとはしなかったのです。

昭和六年		自四月外		國旅券下付表	
八五二四内田	五月八日	八五五六竹鶴政孝	五月十日	八五五六高橋リタ	五月十日
八五五六高橋リタ	五月十日	八五五六高橋房子	五月十日	八五五六高橋房子	五月十日
計三名		附記一名			

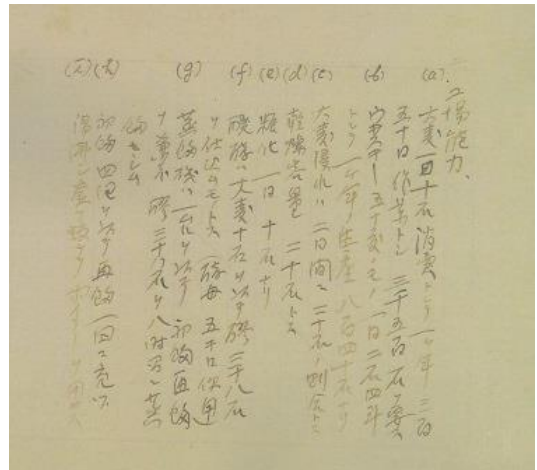
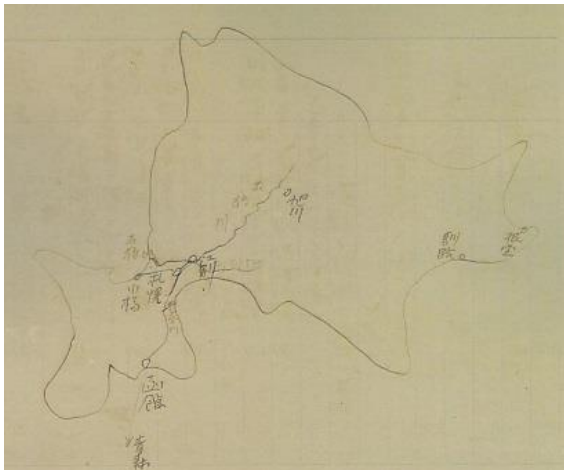
竹鶴一家の旅券発給記録
このときは神奈川県より発給されています

21.新会社設立に向けて

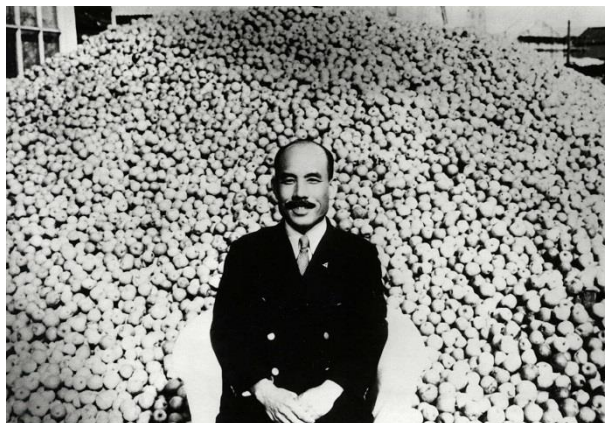
政孝の寿屋における雇用は 10 年間という契約であったので、契約期間が終了した昭和 9（1934）年に退職し、新たなウイスキー造りへの挑戦を開始しました。

寿屋勤務時代の調査から、スコットランドに自然環境が近いということから北海道こそウイスキー造りに最適だと確信していたので、蒸留所を北海道の余市に建てることにしました。社名は大日本果汁株式会社としましたが、これはウイスキー造りには数年要することから、当座の事業として、北海道産のリンゴからジュースを作って販売したことにより

ます。
ちなみに会社名を大日本果汁株式会社からニッカウイスキーに改めたのは、戦後の昭和 27（1952）年のことです。



北海道調査時の手書きメモ（複製）※アサヒビール社提供



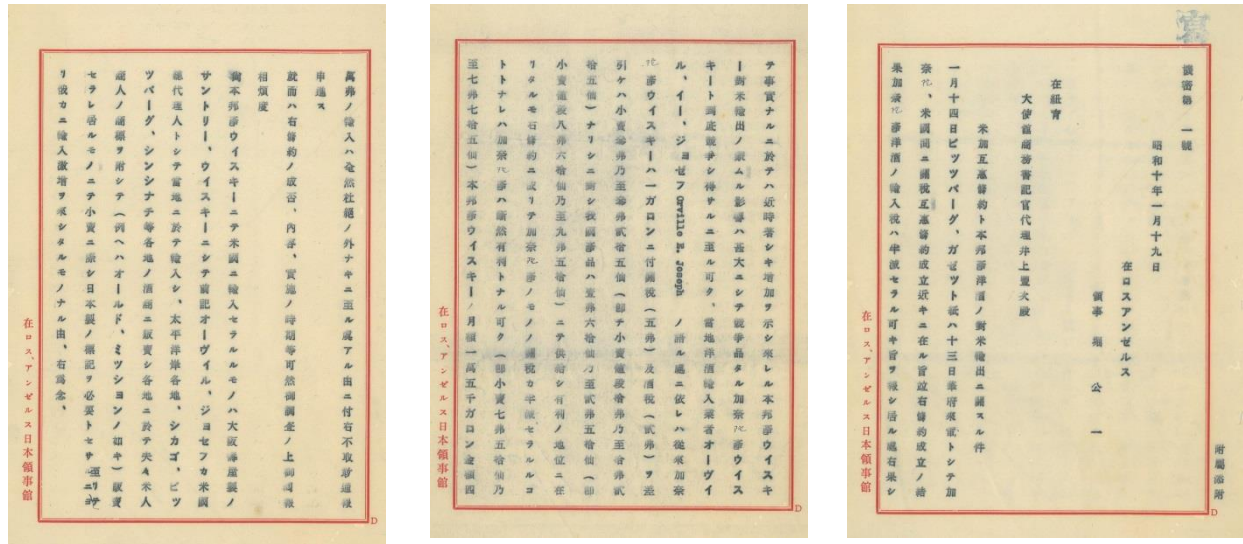
山積みのリンゴの前で ※アサヒビール社提供

22.日本ウイスキーのアメリカ進出

寿屋では、政孝退職後もウイスキー事業を続けましたが、芳しくない状況が続きました。しかし、昭和 12（1937）年発売の「サントリーウイスキー角瓶」が好評を博し、国内販売は好転しました。

他方、昭和 10（1935）年段階で既に日本製ウイスキーがアメリカにも輸出され、販売を伸ばしていたことが報告されています。在ロサンジェルス堀公一領事からの報告によれば、寿屋製のサントリー・ウイスキーの輸入が激増しているとあります。ところが、当時交渉中であったアメリカ・カナダ間の関税互惠条約交渉に関して、仮に同条約が実現した場合、日本ウイスキーと競合関係にあったカナダ産ウイスキーの輸入関税がおおよそ半額に減じるため、日本産ウイスキーを凌駕する可能性があることを堀領事は危惧しています。

世界大恐慌に端を発するブロック経済化の動きが、生まれたばかりの日本のウイスキー業界にも影響を及ぼしていたことを伝えています。



昭和 10 年 1 月 19 日付、在ロサンジェルス堀公一領事より
 在ニューヨーク井上豊次大使館商務書記官代理宛公信機密第 1 号
 「米加互惠条約ト本邦産洋酒ノ対米輸出ニ関スル件」

V 札幌冬季オリンピック

23. 竹鶴政孝と札幌オリンピック

「ウイスキー一筋で生きてきた。その意味では一行で片づく男である」

政孝は、自らの人生をこのように評しました。しかし、ウイスキー産業以外でも彼の活躍は、多岐にわたります。その一例こそ、日本におけるスキージャンプ競技の選手養成に大きな貢献をしたことです。

時代は、太平洋戦争直前にさかのぼります。余市中学の校長よりスキージャンプ台を作りたいという話を持ちかけられた政孝は、快諾し、昭和 16（1941）年 11 月 29 日に余市高校の裏山に桜ヶ丘ジャンツェと名付けられたジャンプ台が完成しました。しかし、人々はこのジャンプ台を功労者の名にちなみ竹鶴ジャンツェと呼びました。

竹鶴ジャンツェでは多くのジャンプ選手が練習に励みましたが、その一人に地元余市出身の笠谷幸生選手がいました。彼は、明治大学卒業後、ニッカウヰスキーに入社し、昭和 47（1972）年、日本で初めて開催された冬期オリンピックである札幌オリンピックにおいて、70 メートル級ジャンプで見事金メダルに輝きました。政孝は「多くの名選手を生むのに竹鶴ジャンツェが役立ったことに、ひとりで満足した」と喜びました。

冬期オリンピックで日本選手が初めて金メダルをとった快挙であり、さらには銀メダルを今野昭次選手が、銅メダルを青地清二選手が獲得し、今日まで通じて冬期オリンピックで日本勢が金銀銅メダルを独占した唯一の例となっています。



笠谷選手の勇姿（本人サイン入り）※アサヒビール社提供

コラム 青いバラのものがたり ～日本とスコットランドの未来へ

「青いバラを是非作って欲しい」、この何とも不可思議な希望は、日本のウイスキー製造の先駆者である鳥井信治郎の次男、サントリー第2代目社長を務めた佐治敬三が言い出しました（幼い頃親戚である佐治家の養子に迎えられました）。長年ウイスキー製造に携わった彼が何をきっかけに青いバラを作ることになったのかは、彼がすでに不帰の客となった今日、もはや調べようありません。しかし、あえて推測を加えますと、そこにスコットランドへの佐治敬三の敬意と愛情が秘められていたのではないのでしょうか。

ラグビーの大ファンでもあった佐治敬三は、サントリーの社内にラグビー部創設の話が持ち上がった際に、消極的な意見が多数を占める中、父親譲りの「やってみなはれ」の精神で後押しした話は有名です。ラグビーのイングランド・チームは、試合に勝利してウイニングランする際には、胸元に赤いバラのエンブレムをつけます。その様子を何かの機会に観た佐治敬三が、スコットランドの国旗が青地に白のセント・アンドリュース・クロスであることから、スコットランド・チームに青いバラを贈りたいと考えたのではないのでしょうか。

ところが、開発に取り組んだ研究者たちは、改めて与えられたミッションの難しさを思い知ることとなりました。そもそもバラには青い色素がないので、人類の長い歴史の中でも数多くの人がこの青いバラの品種開発に挑戦しましたが全て失敗に終わっていました。そのため、かつては青いバラの花言葉は「不可能」でした。しかし、父親である鳥井信治郎から「やってみなはれ」を繰り返し言われ続け、進取の気質、不屈の開拓精神をたたき込まれた佐治社長に対して、研究者たちも「不可能です。できません」とは言い出せず、あらゆる可能性を追求する地道で気の遠くなるような実験が積み重ねられました。

あるとき、佐治敬三から研究者に次のようなメッセージが届きました。「青いバラ」を、恋人のように待っています」と。その言葉もむなしく、佐治敬三は青いバラを目にすることなく平成11（1999）年に亡くなりま

した。享年 80 歳でした。

青いバラの開発研究は、佐治敬三の逝去によっても中断することなく淡々と続けられました。そして、平成 16 (2004) 年 7 月、世界初の青いバラが咲いたのです。研究開始から 14 年、ついに佐治敬三の夢は実現しました。「やってみなはれ」の精神を受け継いだ研究者たちは、不可能を可能にする奇跡を見事に起こしたのでした。

これによって、青いバラの花言葉も、以前の「不可能」から、現在では、「夢がかなう」、「奇跡」、「神の祝福」に変わっています。「アプローズ (喝采)」と名付けられた青いバラ、この多くの研究者たちの努力の結晶から新たな日本とスコットランドのものがたりが始まることを願わずにはいられません。



マッサン展開連年表

西暦	和暦	政孝・リタさん関係 および日本ウイスキー関係	日本・スコットランド関係	日本および世界の動き
1837	天保 8			ビクトリア女王即位(～1901)
1851	嘉永 3			ロンドン万国博覧会開催＝世界初の万国博覧会
1854	安政 1		英国東インド艦隊のスターリング提督、長崎に来航。日英約定(日英和親条約)成立	
1856	安政 3		日英修好通商条約調印(英国側全権: 第八代エルギン卿)	
1859	安政 6		トマス・グラバー、長崎に来航	
1862	文久 1			遣欧使節団派遣(～1863)→ロンドン万国博覧会も視察し、ちょんまげ姿が注目を集める
1863	文久 2			薩英戦争
1867	慶応 3			王政復古の大号令
1869	明治 2		鹿児島藩の委嘱により、スコットランド人のフェントンが「君が代」を作曲→1880年に日本人が改めて作曲し、現在に至る	
			英国王子エディンバラ公(ビクトリア女王の第2王子)、日本訪問＝外国皇室による初来日にして皇室外交の始まり	
1870	明治 3			東伏見宮嘉彰親王(ひがしふしみのみや よしあきらしんのう)、英国留学(～1873)
1872	明治 5		岩倉使節団、訪英の途上スコットランド訪問→ロンドンでビクトリア女王に謁見	ウィーン万国博覧会開催＝日本、初めて正式参加
1873	明治 6		ヘンリー・ダイアー来日: 工部寮および工部大学校初代都検に就任(～1882)	
1882	明治15		ヘンリー・ダイアー帰国→日本政府より勲三等に叙せられる	
1890	明治23		フォース鉄道橋開通	
1894	明治27	政孝誕生(～1979)		日英通商航海条約改定調印＝治外法権の撤廃
1896	明治29	リタさん誕生(～1961)		
1901	明治34		グラスゴウ万国博覧会開催: 日本、パビリオン設置	

西暦	和暦	政孝・リタさん関係 および日本ウイスキー関係	日本・スコットランド関係	日本および世界の動き
1901	明治34		ケルビン卿、日本政府より勲一等旭日章に叙せられる	
1902	明治35			日英同盟協約調印(第2次=1905年、第3次=1911年、終了=1923年)
1904	明治37			日露戦争(～1905)
1907	明治40			日露協約(第2次=1910、第3次=1912、第4次=1916、ロシア側より破棄=1917)
1908	明治41		トマス・グラバー、日本政府より勲二等旭日重光章に叙せられる	
1911	明治44			日米通商航海条約改定調印=関税自主権の回復
1914	大正 3			第1次世界大戦勃発(～1918)
1916	大正 5	政孝、摂津酒造入社		
1917	大正 6	リタさんの父=カウン医師急逝(享年48歳)		英国、第4回選挙法改正:30歳以上の女性に初めて選挙権付与
		リタさんの婚約者、戦死		
		政孝、米国経由でスコットランド留学(～1920～)		
1919	大正 8	政孝、リタさんと出会う一年末には求婚		パリ講和会議
1920	大正 9	結婚(政孝26歳、リタさん24歳)→日本へ		
1921	大正10	政孝、摂津酒造に復帰するもウイスキー製造の見通しが立たないので退社	裕仁皇太子訪欧にあたりスコットランドも訪問	ワシントン会議:米英仏日の4カ国協約調印=日英同盟廃棄決定(正式には同条約の批准書が寄託された1923年に終了)
1922	大正11			英国皇太子(後のエドワード8世)、前年の裕仁皇太子の訪英に対する答礼として来日
1923	大正12	政孝、寿屋(後のサントリー)の鳥井信治郎社長の誘いにより寿屋入社		関東大震災
1924	大正13	寿屋、政孝が中心となり山崎に日本初のウイスキー工場建設		摂政宮裕仁親王ご成婚
1925	大正14	リタさん、初の里帰り 政孝はウイスキー製造上の問題点解決のためスコットランド再訪		
1928	昭和 3			英国、第5回選挙法改正:21歳以上の男女に平等の選挙権付与
1929	昭和 4	国産初のウイスキー「サントリー白札」発売開始		世界大恐慌

西暦	和暦	政孝・リタさん関係 および日本ウイスキー関係	日本・スコットランド関係	日本および世界の動き
1930	昭和 5	房子(後のリマ)を養女とする		
1931	昭和 6	伏見宮博恭殿下(ふしみのみや ひろやす でんか)、日本産業協会総裁として 山崎工場視察:政孝が説明		
		鳥井信治郎社長の長男吉太郎のスコット ランド訪問に政孝、リタさん、房子同行		
1933	昭和 8	政孝、横浜に転勤:日英酒造のビール工 場長就任→鎌倉へ引っ越し		
1934	昭和 9	政孝、寿屋退社→余市で大日本果汁株 式会社設立:余市へ引っ越し		
1939	昭和14			第二次世界大戦勃発(～1945)
1940	昭和15	「ニッカウヰスキー」発売開始		
		ニッカ余市工場、海軍指定工場に		
		鳥井吉太郎逝去		
1941	昭和16	政孝、余市中学校長の依頼によりスキ ー・ジャンプ台建設の資金寄付:いわゆる「竹鶴シャンツェ」		
1945	昭和20	姉の息子威(当時 20 歳)を養子にする		ポツダム宣言受諾:終戦
1951	昭和26			サンフランシスコ平和条約調印
1952	昭和27	大日本果汁株式会社から社名をニッカウ ヰスキーに変更		エリザベス2世即位(～現在)
1953	昭和28		明仁皇太子、エリザベス女王の戴冠式 列席のため訪英の際、スコットランドも訪 問	
1954	昭和29	アサヒビールと住友銀行がニッカの過半 数株を保有		
1961	昭和36	リタさん逝去:享年 64 歳		
1962	昭和37	ヒューム副首相来日:「40 年前、一人の 頭のいい日本青年が、一本の万年筆と ノートで我が国の宝であるウイスキーづ くりの秘密を盗んでいった」と政孝に関 するスピーチ		
1965	昭和40			北海油田発見される
1969	昭和44	政孝、勲三等瑞宝章に叙せられる		
1970	昭和45	札幌冬季オリンピックスキー・ジャンプ競 技 70 メートル級で笠谷幸生選手(ニッカ ウヰスキー所属)、金メダル獲得		

西暦	和暦	政孝・リタさん関係 および日本ウイスキー関係	日本・スコットランド関係	日本および世界の動き
1979	昭和54	政孝逝去: 享年 85 歳		スコットランドにおいて、直接選挙による議会設置の是非を問う住民背挙で、投票者の中では賛成が 52 パーセントと過半数を占めるも、有権者全体の 40 パーセントの賛成を必要とするいわゆる 40 パーセントルールにより否決される
1989	平成 1	ニッカ、スコットランドのベン・ネヴィス蒸留所の経営権を取得		
1990	平成 2	サントリーの佐治敬三社長、青いバラ開発を指令		
1993	平成 5		在エディンバラ日本総領事館開設	
1997	平成 9			課税権限のあるスコットランド議会設置の是非につき住民投票の結果可決
1999	平成11	佐治敬三逝去: 享年 80 歳		スコットランド議会、初選挙
2001	平成13	ニッカウキスキー、上場を廃止し、アサヒビールの傘下に入る		
		『ウイスキー・マガジン』主催のウイスキー鑑定イベントで「余市 10 年」が世界一に選ばれる		
2004	平成16	サントリー、世界で初めて青いバラの品種開発に成功		スコットランド議事堂完成
2005	平成17		グレインイーグルズサミット開催	
2007	平成19		スコットランドの20ポンド紙幣にフォース鉄道橋の原理を示す渡邊嘉一の姿が描かれる	
2014	平成26			スコットランド独立を問う住民投票否決される

主要参考文献

- ・竹鶴政孝『ウイスキーと私』（非売品，1976 年）
- ・ダイヤモンド社編『ヒゲと勲章』（ダイヤモンド社，1976 年）
- ・川又一英『ヒゲのウキスキー誕生す』（新潮社，1982 年）
- ・松尾秀助『琥珀色の夢を見る－竹鶴政孝とウキスキー物語』（PHP エディターズグループ，2004 年）
- ・北政巳『国際日本を拓いた人々』（同文館，1984 年）
- ・同『スコットランドと近代日本』（丸善プラネット，2001 年）
- ・同『蘇格蘭土と日本・世界』（近代文芸社，2004 年）
- ・同『エルギン伯爵とオリファントの見た幕末日本』（揺籃社，2012 年）
- ・高橋哲雄『スコットランド 歴史を歩く』（岩波新書，2004 年）
- ・ナイジェル・トランター著，杉本優訳『スコットランド物語』（大修館書店，1997 年）
- ・鹿島守之助『日英外国史』（三秀舎，1957 年）
- ・Chris Tabraham, The Illustrated History of Scotland (Lomond Books, 2003)
- ・Susan Watkins, Mary Queen of Scots (Thames & Hudson Ltd, 2001)
- ・ピーター・ブース・ワイリー著，興梠一郎執筆協力・訳『黒船が見た幕末日本』（TBSブリタニカ，1998 年）
- ・Eighth Earl of Elgin James, Letters and Journals of James, Eighth Earl of Elgin (free online book on Read Central.com, 2012 年)
- ・梅溪昇『お雇い外国人 明治日本の脇役たち』（日経新書，1965 年）
- ・同『お雇い外国人 第1概説』（鹿島平和研究所，1968 年）
- ・嶋田正『ザ・ヤトイ お雇い外国人の総合的研究』（思文閣出版，1987 年）
- ・多胡吉郎『スコットランドの漱石』（文春新書，2004 年）
- ・波多野勝『裕仁皇太子ヨーロッパ外遊記』（草思社，1998 年）
- ・同『明仁皇太子 エリザベス女王戴冠式列席記』草思社，2012 年
- ・夏目鏡子述，松岡譲筆録『漱石の思ひ出』（改造社，1928 年）

主要参考論文

- ・加藤詔士「日本・スコットランド教育文化交流の諸相」（『名古屋大学大学院教育発達化学研究科紀要（教育科学）』第56巻第2号，2009年度所収）
- ・Takutoshi Inoue “Japanese Students in England and the Meiji Government’s Foreign Employee (Oyatoi)”（関西学院大学 Discussion paper vol. 40, 2008）
- ・尾高煌之助「明治のお雇い外国人たちと産業発展の構図」（法政大学イノベーション・マネジメント研究センター，2007 年）

当館所蔵史料収録ファイル一覧

- ・1. グラバー叙勲関係：6.2.1.5-5「外国人叙勲雑件 英国人ノ部」第7巻
- ・3. ダイアー叙勲関係：6.2.1.5-5「外国人叙勲雑件 英国人ノ部」第1巻
- ・4. ケルビン卿叙勲関係：6.2.1.5-5「外国人叙勲雑件 英国人ノ部」第6巻
- ・6. エディンバラ公来日関係：6.4.4.1-3-1「外国貴賓ノ来朝関係雑件 英国之部 英国「ジェック、エットウインブルグ」親王来朝ノ件」第2巻
- ・7. 裕仁皇太子スコットランド訪問関係：L.1.3.0.6-2「皇太子裕仁親王殿下御渡欧一件」
- ・8. 英国皇太子来朝関係：6.4.4.1-3-2「外国貴賓ノ来朝関係雑件 英国之部 英国皇儲来朝ノ件」第2巻
- ・9. 明仁皇太子スコットランド訪問関係：L’.1.1.1.3「皇太子継宮明仁親王殿下御外遊一件－英国エリザベス女王戴冠式御出席－」第3巻
- ・10. 大正7年の竹鶴政孝への旅券発給記録：3.8.5.8「海外旅券下付（附与）返納表進達一件（含附与明細表）」第191巻
- ・13. 結婚証明書送付状：3.8.7.26「内外人婚姻関係雑件」第1巻
- ・18. 大正14年の竹鶴夫妻への旅券発給記録：3.8.5.8「海外旅券下付（附与）返納表進達一件（含附与明細表）」第224巻
- ・20. ①昭和6年の竹鶴夫妻への旅券発給関係記録：J.2.2.0.J13-7「外国旅券下付表一件 府県報告」第19巻
②同鳥井吉太郎への旅券発給記録：J.2.2.0.J13-7「外国旅券下付表一件 府県報告」第19巻
- ・22. 昭和10年段階における日本ウイスキーの対米輸出急増関係：E.4.1.0.4「酒類関係雑件」

※本展示解説の一部を引用する場合には、必ず出典を明示して下さい。
また、一つの項目の全文など長文にわたる場合には、事前に外交史料館にご連絡下さい。

〒106-0041
東京都港区麻布台1丁目5番3号
外務省外交史料館
TEL 03-3585-4511
平成26年11月7日 第4版



竹鶴家による二人の歓迎夕食会

1921年11月



正装で記念撮影
1931年4月6日
伏見宮殿下の寿宴の目
山崎工場見学の目



弥谷社長と共に



新婚の二人 1920年頃

勲三等受勲時ポートルート

1939年4月

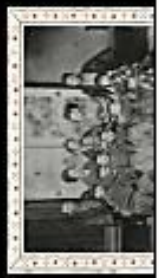


釣り上げたマグロを手に



余市の自宅にて

着物姿、ベランダにて



政孝家集合写真
前列中央が政孝 5才



お互いに撮りあった二人



威とリタさん



着物姿



ポートルート



窓辺から微笑むリタさん

リタさんの実家の前で
左から妹ルーシー、弟ラムゼイ、
妹エラ、リタさん



池田総理と
1963年



リタさんの実家の前で
1919年頃



ピアノを弾くリタさん



仕留めた熊(280キロ)
と記念撮影 1960年



ゴルフ
に興じる
リタさん



余市工場、社員一同
と記念撮影 1962年頃



リタさんの実家
(カーカンテロフ)



大阪支店一同と記念撮影
1962



孫の孝太郎とリタさん
1953年

琥珀色の夢と 青いバラのものがたり

関連地図

バフックバーンの戦い(1314年)

カーカシテロフ

リタさんの実家

● グラスゴウ

エディンバラ

ケラスゴウ大学

スコットランド

インダグランド

出典: バルモラル城 (<http://www.news-digest.co.uk/news/features/4025-queen-elizabeth-dalaces.html>)、
エディンバラ城(racethecastles)/フォース修道院(freemageslive)、
フレア城(メラスゴウ大学、北海相田(Wikipedia) リタさん実家(アサヒ)株式会社提供)

